

教育・スポーツ

17年度公立高校推薦・特色入試出願状況

神戸学院大学テニス部のソフロニオ・パラハン監督(50)は現役時代、国別対抗戦デビスカップ(デ杯)のフィリピン代表として活躍した。世界のトップ選手と戦う厳しさを知る監督が、今、指導者として若い選手たちに伝えたいことは何だろうか。大学のコートを訪ねた。

厳しさを伝え内面磨く

は
——テニスを始めたきっかけ

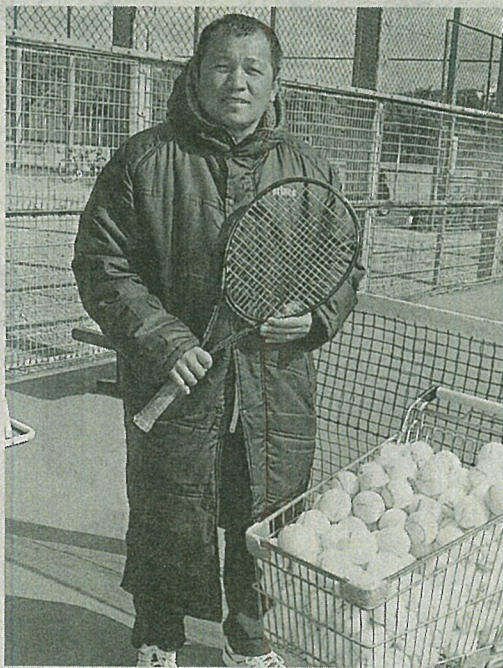
フィリピンではバスケットボールが人気です。でも、10歳の頃、近所のテニスコートでお年寄りたちがプレーをする姿を見て「テニスも面白そうだ」と思いました。ただ、ラケットがなくて、木の板をラケットの形に切った壁打ちを始めました。テニスというより、卓球みたいでしたね。

——選手時代の思い出は

フロント この人に聞く

神戸学院大テニス部監督

ソフロニオ・パラハンさん (50)



神戸学院大テニス部のソフロニオ・パラハン監督

ソフロニオ・パラハン(Sofronio Palahang) 1966年、フィリピン・ミンダナオ島生まれ。91〜96年までフィリピンのデ杯代表として活躍。現役引退後、和歌山県や東京都のテニスクラブでジュニア選手育成に携わり、2003年から神戸学院大で指導している。

——特別な経験ができました。

来日のきっかけは
——選手を引退した1996年に知人から日本で指導してほしいと頼まれました。最初は日本語もままならず、身ぶり手ぶりの

指導でした。東京のテニスクラブでジュニア選手らの育成をしているとき、神戸学院大の前監督から「テニス部を関西大学対抗テニスリーグの1部に昇格させた」と誘われ、移籍しました。フィリピンと兵庫県のテニス協会は昔から交流があり、知人も多かったのです。2005年に男子を1部に昇格させることができました。

指導で心がけていること
——道員などがよくなり、選手の技術レベルは昔より上がっています。道具などがよくなり、選手の



学生たちを指導するパラハン監督(いずれも神戸市西区)

今の選手は全体的に厳しい練習を好みません。厳しいだけではダメですが、厳しい練習を乗り越えてこそ、つかみ取れるものもある。精神的な部分を教えるのは非常に難しいが、何とか伝えようと努力しています。——大学生だけでなく、地域で若い選手も教えていますね。大学の地域連携の一環として、06年度から取り組んでいます。ここでも精神的な部分を重視しています。技術的にはうま

取材を終えて

フィリピン代表として、デ杯で松岡修造さんと戦った経験もあるパラハン監督。取材中は常に優しい語り口で、笑顔絶やさない方でした。ただ、学生を見る目は厳しい。消極的なプレーは小さなものも見逃さず、最後に選手を支えてくれるのは「内面的な部分」と繰り返し力説する。精神的な強さの大切さを若い選手たちに伝えようと腐心する姿に、世界を知る指導者だからこそのこだわりを感じました。(金井和之)